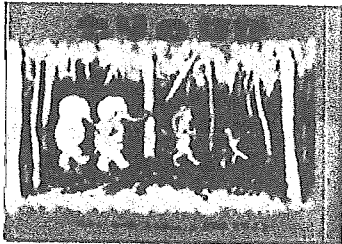


五月

麗はしの五月、大好きな五月。
 森は芽吹き、さまざまな緑、すきとおるような緑がそよぐ。
 りんごの木はほんのり薄紅のつぼみをつけ、白い花は甘く香る。
 鳥は歌う。耳のいい人は五線紙に書きたろう。

(個人会員 日向禮子)



もりのなか

マリー・ホーレ・エンツ ふん/え まさきりこ やく
 福音館書店 1963. 12. 20

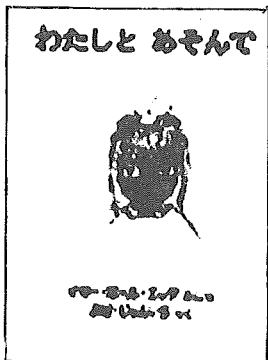
初めてのプレゼントに必ず入れる絵本。白黒の絵がすくに
 想像の森へ誘ってくれる。迎えに来たおとうさんの言葉がいい。
 「ま、と、またこんどまで までてくれるよ」

木

佐藤忠良 画
 木島始 文
 福音館書店
 <こどものとも>傑作集
 2001. 2. 1



今年3月30日に逝かれた彫刻家の
 の佐藤忠良氏。その彫刻も絵も
 好き。シバリア抑留の体験もわり
 彫刻家としての修業のオカはるか
 に厳しい。とおっしゃられたとか...



わたしとおそんで

マリー・ホーレ・エンツ ふん/え
 よたじゅんいち やく 福音館書店 1968. 8. 1

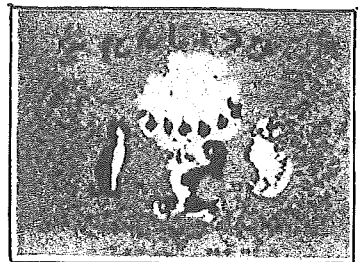
女の子がばつたやかえりに「おそひましょ」と呼びかけると、
 ばつたたちは逃げてしまう。でも池のそばの石に腰かけて
 じとしていると...。女の子の目が何とむ豊かにその気持を
 表現している。足を高く揚げて帰っていく女の子を、草間から
 おと見守っていたお母さまがにこにこしながら見ている。

たんじょうび

ハンス・フィッシャー . ふん え
 おおつかゆうこう やく 至光社 1965. 10. 1

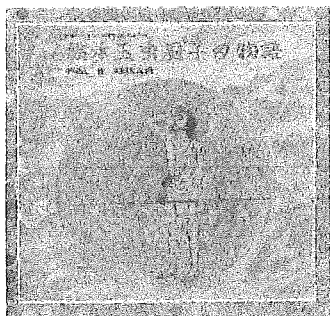
今日はプレゼントおはあちゃんの76才の誕生日。一緒に住んで
 動物たちは何をプレゼントしたでしょうか。ハンス・フィッシャー
 の手はしなやかで動物たちは本の中で跳ねまわす。

実は五月は私の誕生日。これ偶然、この本の17刷りの発行日は長女の誕生日の年月日でした。



梅雨空を眺めて心晴れぬ日は、雨の音をBGMにこんな絵本をどうぞ…。

(風の子文庫 蚊野美加)



絵本玉虫厨子の物語

平塚武二作 太田大八画 童心社 1980

名誉や愛情を得るためでなく、ただ純粹に「美しいものを作りたい」と願った若き仏師の物語。法隆寺に伝わる何千枚もの玉虫の羽で飾られた“玉虫厨子(たまむしのずし)”がモチーフ。



ゴッホ 風がはこんだ色彩

キアラ・ロッサーニ文 オクタヴィア・モナコ絵

結城昌子監訳 西村書店 2010

ゴッホと弟テオの間で交わされた手紙をもとに、画家の芸術への情熱と兄弟の愛情を描く。絵の中に組み込まれたゴッホの作品が、巧みに彼の心模様を映し出している。

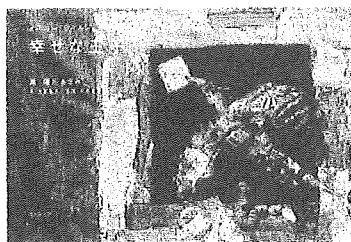


うごく浮世絵！？

よぐちたかお作 アーサー・ビナード英文

福音館書店 2005

歌舞伎役者や蝶、波や花火が動き出す！マジックフィルムを使った仕掛けを楽しみながら、ゴッホなど印象派の画家にも影響を与えた浮世絵の世界を身近に。『びじゅつのゆうえんち』シリーズの一冊。



幸せな王子

オスカー・ワイルド原作 清川あさみ絵

金原瑞人訳 今井智己写真 リトルモア 2006

布、レース、糸、ビーズなどでコラージュされた繊細な絵(作品)で表現されるオスカー・ワイルドの世界が美しい。清川あさみさんの絵本には『銀河鉄道の夜』『人魚姫』も。

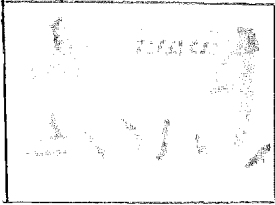
「星」

七夕の季節、夜空を見上げてください。星の本を選んでみました。

角谷直子（もみじ文庫）

『たなばた』

君島 久子 再話 初山 滋 絵 福音館

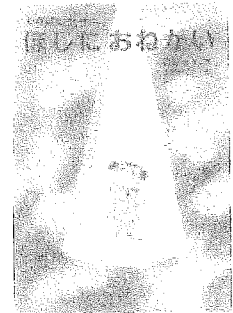


七夕のお話しなのですが、これは、織り姫と牽牛、二人の愛の物語ではなく、織り姫と牽牛そして二人の子どもの家族愛の物語です。夏の夜空、天の川の両側には、うしかい(牽牛星)とおりひめ(織女星)が強い光を放っています。そして牽牛星のそばには、二つ並んだ小さな星(子どもの星)があるのです。

『ほしにおねがい』

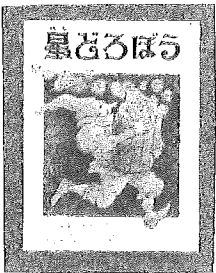
武鹿 悦子 作 新野めぐみ 絵 教育画劇

七夕の夜、小さな星の男の子が、地上に降りてきました。一人前の星になるためには、誰かの願いを一つ叶えないといけないからです。星の子は、短冊に書いてある小さな女の子えりちゃんの願いをみつけました。



『星どろぼう』

アンドレア・ディノト 文 アーノルド・ローベル 絵 やぎたよしこ 訳 ほるぷ社



星が欲しくてたまらなかつた泥棒は、なんと空の星を全部盗んでしまいました。村人は、次は月を盗みに来るだろうと月に罾をしかけて泥棒を捕まえます。星を取り返した村人は、夜空に戻そうとしますが…。さてどうしたら星は空へ戻るのでしょうか。

『銀河鉄道の夜』

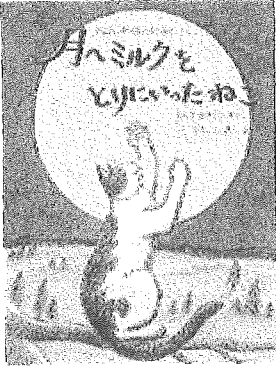
宮沢賢治 作 藤城清治 影絵と文 講談社



貧しい少年ジョンパニは、友達カンパネルラに誘われて「銀河のまつり」に行きます。しかし意地悪な友達にからかわれ一人逃げるように丘の上に行くのでした。そこで不思議な出来事が起こり、気がつくときジョンパニは、銀河を走る列車の中に…。前の席には、大好きな友達カンパネルラがいます。二人は、星空の旅に出るのでした。

この本の文章は、大変読みやすいです。また藤城さんの素晴らしい影絵は、私達を星空の世界に引き込みます

今年の仲秋の名月は9月12日(月)です。一年で一番きれいなお月さまをゆっくり眺めてみませんか。・・・今月はお月さまにちなんだ絵本を紹介いたします。・・・



『月へミルクをとりにいったねこ』

作：アルフレッド・スメードベルイ 絵：垂石眞子 訳：菱木晃子

福音館書店 1996年

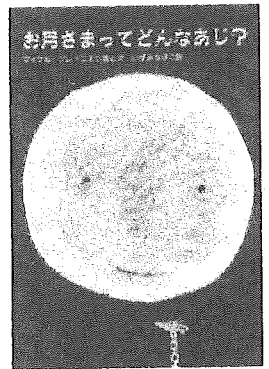
犬から「ミルクが欲しいなら月へ行けばいい」と聞いた母さん猫は、大切な四匹の子猫の為に、月を目指していちもくさんに走り出します。途中、豚とおんどりと子牛に出会い一緒に月にむかって走りますが、次々にあきらめてしまいます。さて母さん猫は・・・

『お月さまってどんなあじ?』

作・絵：マイケル・グレイニエツ 訳：いずみちほこ セーラー出版

1995年

「お月さまってどんなあじなんだろう」動物達はお月さまを見るたびに、そんな疑問を抱いていました。ある日小さなカメが、お月さまをかじってみようと高い山に登ってみますが、てっぺんに着いてもお月さまには届きません。カメはゾウを呼びます。



『つきのぼうや』

作・絵：イブ・スパンク・オルセン 訳：やまのうちきよこ 福音館書店

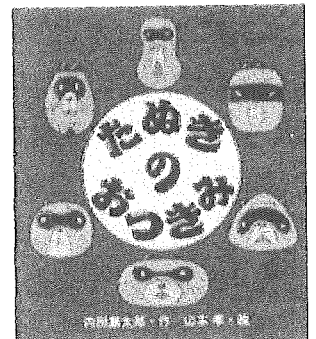
1975年

お月さまがふと下を見ると、池にもう一人のお月さまが映っていました。お月さまはそのもう一人のお月さまが気に入り、つきのぼうやにそのおつきさまを連れて来るように頼みます。つきのぼうやが持って帰ったお月さまとは・・・

『たぬきのおつきみ』

作：内田麟太郎 絵：山本 孝 岩崎書店 2003年

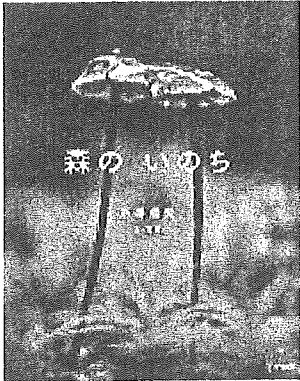
秋になって見渡す限りに稲穂が実り大喜びのお百姓さん達。山のためき達も大喜び。たぬき達は少しずつ作物のおすそわけを頂き、お月さまに喜んで欲しいという一心でお月見の準備をします。お月さまはどんなお顔をしてくれるのでしょうか?



～森の中をのぞいてみると～



季節ごとにいろんな遊びをする「ぼくたちの春と夏と秋と冬」(ピーター・レイノルズ絵 ボブ・ラッチカ文 主婦の友社 2011)。蟬の音が聞こえなくなった泥道で、シカの足後追っかけて、冬は雪を投げつけ、木に白いシミをつける。遊びの場所は森の中



へ……。その森をじっくり見てみると、「森のいのち」

(小寺卓矢文・写真 アリス館 2006)に出会う。シカの鳴き声やリスがクルミをかじる音。何の木だったかわからないほど朽ちてしまった木が倒れている。死んでしまった木の上にキノコや木の新芽の新しい命がある。大きないのちのつながりも森の姿。「きのこ ふわり胞子の舞」(埴沙萌 写真・文 ポプラ社 2011) に出てくるきのこたちが放つ胞子は霧のよう。別世界へ誘ってくれる。森の木たちがあくびをしている「ふあ～あ～」 「ふあ～」

と「おしゃべりな森」(野呂希一文・写真 講談社

1997)。ミズナラの鼻の正体はヤマブシイタケ。

あのブナの木はデベソだね。カタクリさん、

まっすぐ伸びたかったのに邪魔がはいったね。

まっすぐ伸びられなかったのは、こちらのオミナエシ

やヨモギもいっしょ。よく見て出会えた森の不思議。そんな

「森の木」(川端誠 作 リプロポート 1993)には、“モク”という木の精がいる。

人は、たくさん実のなる1本の木のまわりにやぐらをたて、温室にする。

一日中暖かい温室でどんどん育つ木、モクは体を休める暇がない。魔物が

住みついた木が人間に与えたものは何か。木がしっぺ返しをした後で、新しい命を見つけた

食欲の秋?

それとも...

街は赤や黄色の木々が色づき始めています。そんな色の
おぼろが 『いろいろへんないろのはじまり』 (ア-ノルド-ロ-バル 作/
またまたこ-訳 / 富山房 / 1975年) のまほうつかいがか作ったおぼろだと
思うと心踊ります。



そして、秋の深まりと共に食欲が増えるおぼろが 『りんごず』 (川端誠 作
文化出版局 / 1984年)、 『おまたせスッキー』 (ハッチンス作 / 乾佳美子 訳 / 偕成社
1987年) のページをめくると、いい香りや甘い匂いに誘われます。

そして、目・耳・鼻の良なおおかみ “ウルフ” は料理人にもってこい
『オオカミウルフは名コック』 (ジェニー・ニモ 作 / 安藤紀子 訳 /
偕成社 / 1998年) ホテルのシェフには、オオカミウルフは、働きすぎで退席
と空腹のため、つい匂いにかぶりついたのが原因。ホテルを退席した
身に …… ウルフはホテルに戻ることができないのでしょうか？

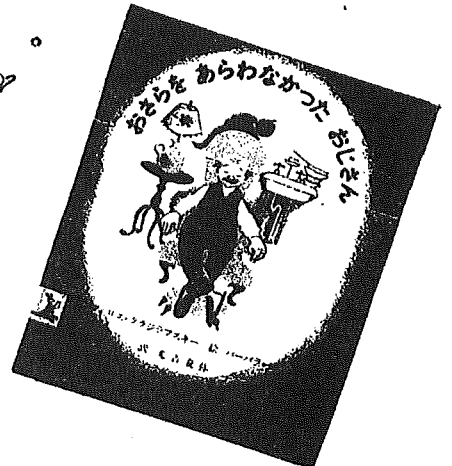
おぼろがねのおじさん! 『おぼろをあらわなかつたおじさん』 (フリス
クラリアスキー 作 / バーバラ・クニー 絵 / 光吉重弥 訳 / 1978年) 料理好き
なおぼろは、血を洗った翌日の朝、またおぼろしたために… 背中、足の踏み場も
ない位に汚れた血や食品だらけに ……

どうせ、その血を洗ったのだから? 見てのおぼろさん ~~~~~
バーバラ・クニーのシロ口な絵に和みます

深まりゆく秋、おぼろはどんな秋をたのむのでしょうか



喜多村 恭子 (松陽小 絵本研究会)





クリスマス～年越し絵本

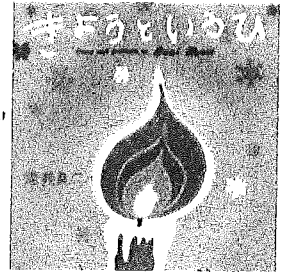
「絵本ちゃん」 谷文絵

とっても悲しい出来事が多かった2011年も残りわずか。
絵本であたたかなモチになり新しい年を迎えよう。



「クリスマスのおかいもの」
たしげ 作
講談社

仲良しのおともたちへのクリスマス
プレゼントはなにがいいかな？
クリスマスでにいかかな商店街のお店で あれこれと
おかいもの（私は本屋さんイメージが好きです）買って、
どんなクリスマスパーティだったのでしょうか？ クリスマスの
ワクワク感と幸せな気分を「ワクワクと
楽しめよう絵本です。」



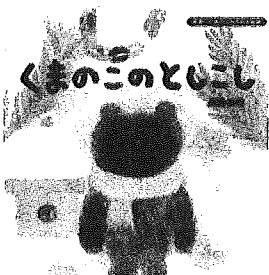
「きょうというひ」
荒井良二 作
BLS出版

きょうというひのちいさなちいさなしりのりが
きえないように... きえないように...
詩のように描かれた2005年発行の絵本ですが、
今年にからこそ感じることが、静かに静かに
心に響くものがあります。



「ルララとトララ クリスマスのプレゼント」かみのゆう 文 おくほりゆめ 絵 講談社

明日はクリスマス！
うさぎのルララとトララがほしいのは、
ふかふかのあったかーいセーター。でもどんなセーターがいいの？
いろんな色のイメージの世界を旅しながら夢がふくらむ
シンプルでかわいいおはなしです。



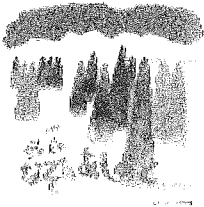
「くまのこのとしに」
高橋和枝 作 講談社

「このしがおわるとどうなるの？」くまのこのかわい
きおんにおかあさんは「らいねんがくまのま」と答えます。
目には見えない「らいねん」のためにおどろいたり、
おかいものしたり、ごちそうを作ったり、カザリつけしたり...
年越しという特別な時間、新年をむかえるという日を
あらためて感じさせてもらえる大人にとっても
新鮮な気持ちにさせてもらえる本です。

★ 寒いけど、雪だけど、凍ってるけど、寒いって言わないで外にでましょう！

西谷 典子

『雪の上のなぞのあしあと』（かがくのとも傑作集） あべ弘士 福音館



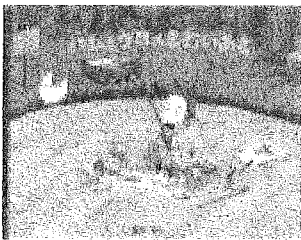
日本で一番寒いところにある動物園。一人で宿直、でも夜の動物の姿を見るのはけっこう好きだ。が、ややっ、不思議な足跡を発見！
いったい何者？ 飼育係は大パニック。さてその正体は？

『おおさむこさむ』（こどものとも傑作集） こいでやすこ 福音館



おおばあちゃんに作ってもらった温かいマントを着て、寒い雪の日に遊びに出かけた「きっこ」たち。もし、“ゆきぼうず”に出会ったら、決して「さむい」って言わないこと！ 小さな雪だるまが現れて楽しく一緒に遊びますが、実はこれが“ゆきぼうず”。きっこたちを凍らせようします。こわ～い、どうなるの？ もうドキドキです！

『バムとケロのさむいあさ』 島田 ゆか 文溪堂



寒いから凍ってるかも！ お池に出かけた二人…。

ケロちゃんがかわいくて、バムがやさしくて、いつ見てもおもしろくて、にんまりしてしまいます。 かいちゃんのおとぼけぶりには、もう爆笑！

『ゆきみち』 梅田俊作/佳子 ほるぷ出版



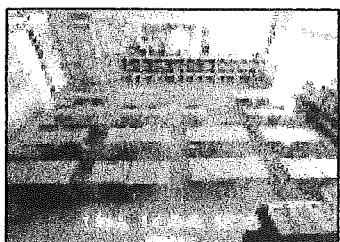
お産で田舎に帰っているお母さんに、赤ちゃんが生まれたので、お父さんと会いに行く。僕はお兄ちゃんになったんだ。喜びと不安、いろんな思いを胸に一步ずつ、吹雪の道を踏みしめ、踏みしめ、ようやくおばあちゃんの家…。頑張ったね。

1年生と読みたい

ピカピカの1年生といっしょに読んだら、どんな言葉が返ってくるかしら？

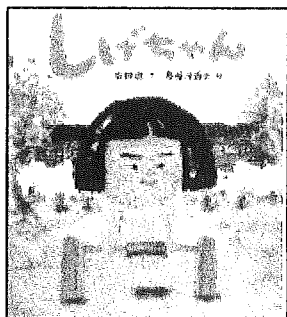
(城陽おはなしサークル 塚脇節子)

『1ねん1くみの1にち』 川島敏生 写真・文 アリス館



小学校ってどんな所と期待と不安で胸がいっぱいの子ども達と、いろいろおしゃべりしながら読むと楽しい写真絵本。特にみんなのふでばこや毎日の給食の盛り付けのページは会話がはずみそうです。子どもたちが登校してくる朝の教室から帰ってしまった夜の学校までたっぷり見せてくれます。写真からの情報が多すぎて、読み聞かせには不向きですが、どうぞ少人数で絵本を囲んで読んでみてはいかがでしょうか。

『しげちゃん』 室井滋・作 長谷川義史・絵 金の星社



女優、エッセイストとしてご活躍のあの室井滋さんが小学一年生の時の思い出を絵本にしました。しげちゃんは滋(しげる)という男の子みたいな名前のおかげで、入学式の日からいきなりいやな目にあいました。だいきらいになった名前だけど、お母さんからお兄ちゃんの話と、それから名前には親の願いがこめられているという話を聞いて、ちょっぴり「しげる」がいやでなくなったようです。しげちゃんのつらい思いや悲しい思いに共感し、最後はお母さんにやさしく抱きしめられて、子ども達は真剣に聞いてくれた絵本です。

『てと てと てと て』 浜田桂子・作 福音館書店

最近この絵本を語りで聞きました。振り付きの語りで内容が充分伝わりました。手は楽器、手は道具、手で遊ぶ、手でなでると痛みがおさまる。手でこする、手で言葉を伝える、手でたしかめ、手でさわって読むなどなど。最後の言葉「もしかしたら、手は心が出たり、入ったりするところなのかもしれない」・・・手ってすごいなと心から思いました。私は読み聞かせで紹介しました。子ども達は自然と手を動かして聞いていました。向き合って、手と手をにぎって握手して、友達の輪を大きく広げて行ってほしいと思いました。



春のよろこび♪

まだまだ寒い日が続いています。寒く厳しい冬のと、春のおとずれはよろこびにあふれます。今年の春、みんなの心によろこびがあふれることを願っています。

うさぎ文庫 中川恵美

『ウルスリのすず』

ゼリーナ・ヘンツ 文
アイロス・カリジェ 絵
大塚勇三 訳
岩波書店



鈴行列は子どもたちが鈴をならして冬をおいだし、春を喜びむかえるおまつりです。そして子どもたちはそのお返しに鈴の中に木の実や肉やお菓子をいれてもらいます。

ウルスリも大きな鈴を持ちたかったのですが、もらえたのは一番小さな鈴。どうしても大きな鈴を持ちたいウルスリは夏の小屋にあったことを思い出します。



『はなをくんくん』

ルース・クラウス ぶん
マーク・サイモント え
きじまはじめ やく

雪がふる森ではたくさんのいきものたちが眠っています。

福音館書店

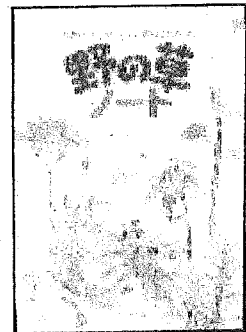
やがてみんなはめをさまし、はなをくんくん。

はなをくんくんしながらかけていくいきものたち。みんながみつけたものは・・・。

『 であってうれしい草はともだち』

野の草ノート』

いわさき ゆうこ 作
文化出版局



これから私たちのまわりではたくさんの草が芽吹いてきます。

食べられる草、染め物に使える草、薬になる草....

いろんな草にであってみませんか。